

平成28年度 第1回奈良県がん対策推進協議会議事要旨

日 時：平成28年8月17日（水） 13時30分～16時10分

場 所：奈良県文化会館 集会室 AB

出席者：赤松 邦子、今川 敦史、大石 元、川本 たか子、駒井 壽美、四宮 敏章
仙波 俊和、西垣 京子、長谷川 正俊（会長）、東浦 宏守、槇野 久春
森本 広子、吉岡 敏子（50音順敬称略）
加藤 雅志（オブザーバー）

概 要：

（1）奈良県のがんに関する現状について【資料2】

- ・奈良県のがんに関する死亡、罹患の状況について事務局より説明。

<主な意見等>

○年齢調整した死亡率、罹患率について地域別に比較し、治療水準等の分析も含めて是非お願いしたい。

→年齢調整をした死亡率や罹患率等の精度の高いデータから地域別比較をしていくことは今後の課題として取り組んでいく必要がある。

（2）第2期奈良県がん対策推進計画の推進について【資料3-1、3-2、3-3】

①第2期奈良県がん対策推進計画及び中間評価の概要について

②がん対策推進スケジュールについて

- ・平成27年3月に取りまとめた「奈良県がん対策推進計画中間評価」の各分野別の進捗状況と今後の課題、「第3期奈良県がん対策推進計画」策定に向けてのスケジュールについて事務局より説明。

《会長》

- ・これまでの流れや全体像を説明いただいたが、体制ができてきて、確実に対策は進んできているという印象。
一方、体制ができたものの、「がんになっても安心して生活できる、仕事も安心してできる。」というのはまだまだ。多数のがん患者さんから見ると、実際に患者さんのレベルで役立っているといえるのはこれからで、やっと体制ができて、動き出したというところ。

（3）平成28年度のがん対策の取組について

①平成28年度 奈良県がん関連事業について【資料4-1】

- ・保健予防課が所管する平成28年度事業計画について事務局より報告。

②がん予防の取組について【資料4-2】

- ・健康づくり推進課より、がん検診受診率向上に向けた取組「個別受診勧奨・再勧奨」等についての成果及び今後の取組について説明。

《会長》

- ・受診率向上について、小さな市町村レベルでモデル事業を実施すると受診率が2倍ぐらい上がったという成果が出たが、県全体として受診率を向上するには、都市部にこの取組を広げていくことが必要で、そこでも成果が出てくるかどうかが重要。

③がんの教育・普及啓発の取組について【資料 4-3】

- ・保健体育課より、平成26年度より文部科学省委託事業として取り組んでいる「がんの教育総合支援事業」の進捗状況と平成28年度の取組について説明。

《会長》

○奈良県では平成26年度より他県以上に積極的に取り組んでいただいております、リーフレットもかなり苦労して作っていただいた。今後、どのように進めていくのか、良い意味でのモデルとして、全国展開していくのではないかと思います。

<主な意見等>

○高校生用のリーフレットを拝見し、内容もすごいなと思う。これは奈良県の全学年の生徒に配布したのか。

→授業を展開する想定 of 学年（高校1学年）の生徒分のリーフレットを各学校に配布し、がん教育実施時に補助教材として生徒に配布し、授業後に回収をしていただき、学校で保管していただいている。

○現段階では、試行錯誤しながらモデル授業を展開していると思うので、将来的には、全員に配ることを期待している。

○生徒にどこまで理解していただけたのか、そのときの先生方の印象などはいかがか。

→実際に授業を実施した先生方の中では、教員の研修をどのように充実させていくのが課題であるが、なかなかやりがいがあると聞いている。また、生徒たちの反応は非常に高かったという声も聞いている。

○外部講師として、医師会の先生が出て行くのはやや抵抗がある。しかし、たばこ対策では、医師会の先生が学校に行って講演等をしており、その後、保健所保健師さんが継続されているということもある。がんに対してもそういう方法もあるのではないか。

○作成したリーフレットの内容は、非常に幅広く、がんを全部カバーしているので、

おそらくこれを全部お話しするのはなかなか難しい問題。わずか 2 時間で全部というと、すごくハードルが高いので、今後は是非、そこを検討していただきたい。

④全国では、がん教育の中で、いのちの授業ということを実施しているところもある。がん教育の中で、がん体験者の話を聞いたり、がん体験者の意見や声を聞くという取組も是非検討してほしい。

→ご指摘のとおり、がん体験者の話を聞くというのも方向性としては出ているが、限られた時間の中では、なかなか厳しい現状。もう少し、たくさん時間を取っていただき、そういった時間を設けるなど、議論を続けていきたい。

④奈良県がん診療連携協議会の取組について【資料 4-4】

- ・がん診療連携協議会の事務局である奈良県立医科大学附属病院より、協議会、分科会の取組について説明。

(4) 講義「がん対策における国の動きについて」【資料 5、参考 1~5】

講師：国立がん研究センター がん対策情報センター がん医療支援部長
加藤 雅志 氏

<主な内容>

- ・国の方では、現在第 3 期がん対策推進基本計画策定に向けて議論されている。
- ・今回、奈良県の第 2 期計画も拝見しているが、非常にすばらしいと思っている。多くの県で、国の作ったがん対策推進基本計画をほぼ同じように焼き直したように県の計画を作ってしまうことが多いところ、奈良県に関しては、奈良県の独自性を出そうという配慮が強く感じられる。基本的な姿勢としては、奈良県の実情をしっかりと調査をして、実情に沿った計画を作ろうという姿勢が強く感じられ、とても素晴らしいと考えている。
- ・国が、がん対策加速化プランをとりまとめたとき、今後のがん対策の方向性についてもまとめられており、参考になるところも多い。
- ・国では、がん対策推進協議会と協議会以外の 3 つの検討会で議論を進めている。
- ・「がん等における緩和ケアのさらなる推進に関する検討会」では、緩和ケアの提供体制、研修会の内容について検討している。がん患者さんは拠点病院にだけでなく、拠点病院以外の場所でも医療を受けている。死亡場所を見てみると、4 分の 3 の患者さんは拠点病院以外でお亡くなりになっている状況もあり、拠点病院以外での緩和ケアの提供体制を充実させていくのも課題。
- ・国立がん研究センターでの取組として、がん診療の質の向上に向けて、県レベルでの PDCA サイクルを確保していくための支援を行っている。今年 2 月には、国立がん研究センター主催で都道府県拠点病院 PDCA サイクルフォーラムを開催し、長谷川先生より奈良県の取組についてもご紹介いただいた。
- ・今後、県の計画を作っていく上で、診療の担い手が拠点病院になることを踏まえる

と、県で作った計画をがん医療の実行部隊である拠点病院にしっかりと取り組んでもらわないといけない。県で作った計画をどのように拠点病院の中で認識してもらい、取り組んでもらうか、計画策定と同時に検討してもらいたい。奈良県の場合は、奈良県がん対策推進協議会とがん診療連携協議会が連携しているのでスムーズに進んでいるのは画期的だと思う。今後もより一層進めてもらいたい。

- 奈良県の「指標をしっかりと作る」ということは、本当に素晴らしいことである。単に何々に取り組むではなく、独自の指標をしっかりと策定して、それを計測していることは是非続けてほしい。

<主な意見等>

○都道府県がん診療連携拠点病院の PDCA サイクルフォーラムでどのようなご紹介をされたのか。

→PDCA の手法を用いて医療の質を評価していくことが拠点病院の指定要件になっているが、PDCA を回すことが目的ではなく、それを使って、よりうまくチェックして実行していくことが大事。奈良県内では、強引に PDCA サイクルの評価票を作り、院内の各分野、特に緩和ケアなど、あるいは県内の拠点病院に配布し、強引にチェックに行った。各拠点病院の評価委員、院内の評価委員を決めてチェックに行くということにして、その前に計画を作って実行し、セルフチェックも実施してもらった。1 年目、2 年目とだんだんうまくいくようになった。そのように実施したことを評価していただけたのかなと思う。

○患者さんから、緩和ケア外来を知らない、「緩和＝死、最期に行くところ」、また、相談支援センターの場所すら知らない、相談にお金がいるのかななどの声もあるが、同じがん患者から知らせていくのが一番安心してもらえるのかなと思っている。

○在宅の現場では、病院との看看連携で看護師と看護師が繋がることで、医療と医療が繋がると思う。病院を退院するのがゴールではなく、退院後も利用者さんの生活が継続できることを目標にしていかないとだめだと思う。今日の会議に出席し、県や国が色々な対策にお金を使っているのが分かった。

○今日の話を知って、どこまで案が出せて、将来結果が出せるのだろうか、どうやってその結果が出たことが分かるのだろうかと思った。

○一般病院でも、末期や再発患者さんが非常に増えてくるので、基礎的な知識を養っていく必要があると思った。

○枠組みはできたので、これから質をしっかりと高めていくことが大事。緩和ケア分野では、中間評価報告の中で、身体症状の緩和は良くなったという評価だったが、精

神症状がむしろ落ちているのが私にとってみたらショックで、この部分を具体的にどのように良くしていくのかというのを考えていく必要があるし、様々な職種、地域でもっと顔の見える環境を作っていく必要があると実感。

○がん検診で精密検査を受けなければならない人には、どこの医療機関へ行って検査を受けてくださいというところまで案内しないと、発見されたものが次に繋がっていかないと感じた。

○がん検診の受診率に関しては、ほぼ全国最低レベルで、精度管理に関してもまだまだ。協議会全体の取組としては、褒めていただきましたが、現場はまだまだと思う。

○インフォームドコンセントが、なかなか患者に浸透していない。緩和ケア研修を実施されているが、やはり、患者さんに説明を十分していただきたい。

《会長より総括》

- 緩和ケア研修に関して、たびたび、患者さんへの説明が不十分というご指摘はあるが、1日、2日の研修会だけで十分に学べることではないので、日々、若手医師の教育に努力していくことが重要。
- みなさん専門外という言葉が使われるが、がんは今や病院だけではないので、このようないろんな分野の皆様の意見を集約してこそがん対策ができる。是非、みなさんの得意な分野、得意でない分野でもご意見をいただければと思う。
- 今日は、総論的な話が主体的であったので、今日いただいたご意見などをさらに具体的に各部会で検討して、まとめて、最終的に協議会で取りまとめる形になるので、具体的なご意見などを積極的におよせください。

以上 16時10分 終了